

大阪言語研究会 第168回公開講演会

The 19th Indo-European Colloquium of Japan

時 2010年12月11日(土) 13:30より
於 大阪大学待兼山キャンパス
文法経講義棟4階 文41教室

プログラム

(案内状と異同あり)

開会の辞	神山 孝夫 (大阪大学教授)
土居敏雄先生のご逝去を悼む	本城 二郎 (大阪大学講師)
蛭沼寿雄先生の遺作『新約本文のパピルス』(第3巻)の刊行について	吉岡 治郎 (神戸海星女子学院大学名誉教授)
ゲルマン祖語における子音変化の記述をめぐって	上野 誠治 (北海学園大学教授)
ラテン語からフランス語への時制・アスペクト体系の変化	町田 健 (名古屋大学教授)
印欧語比較言語学の現状と課題	後藤 敏文 (東北大学教授)
閉会の辞	千種 眞一 (東北大学教授)

17:30~19:30 懇親会 (一般3000円, 学生2000円 於福利会館3階食堂)

本 Colloquium は、わが国言語学会の巨人であった泉井久之助博士 (1905-1983) によって創始された「日本印欧学研究者専門会議」(The Conference of Indo-Europeanists of Japan) に端を発し、博士亡きあと蛭沼寿雄博士 (1914-2001) によって大阪言語研究会に受け継がれた伝統ある会です (詳しくは後掲の「The Indo-European Colloquium of Japan の系譜 (抄)」をご参照ください)。印欧語比較言語学あるいは印欧語の古層を主題とする学術集会としては、恐らく本邦唯一のものでしょう。本 Colloquium を通じてわが国の印欧語学、あるいは歴史言語学全般が生々発展するよう、今後とも是非お力添えください。

目次

	page
プログラム (訂正版)	1
講演者のご紹介 (抄)	2
The Indo-European Colloquium of Japan の系譜 (抄)	4
付記	9
「日本印欧語学会」(仮称) 設立についてのアンケート ご記入の上、受付の回収箱にお入れください	10

講演者のご紹介

(五十音順, 略歴・業績はごく一部)

上野 誠治 (うえの せいじ) 先生

1958年生。北海道大学大学院修了。北海学園大学人文学部教授。

主な業績 「心的挿入節を導く which と非制限的用法」『英語学と現代の言語理論』(北海道大学図書刊行会 1999) ; 「古英詩『十字架の夢』注解 (1) ~ (3)」『学園論集』(北海学園大学) 100 (1999), 106 (2000), 137 (2007) ; 「ヴェルネルの法則の記述に関して」『人文論集』(北海学園大学) 20 (2001) ; 「ヴェルネルの法則にみられる記述の多様性とその原因について」『人文論集』44 (2009) ; 「ゲルマン祖語における子音変化について」『学園論集』145 (2010) ほか。 <http://ling-hgu.com/>



後藤 敏文 (ごとう としふみ) 先生

1948年生。京都大学大学院修了。Erlangen 大学 Dr.phil. 東北大学文学研究科教授。独印欧語学会 (Indogermanische Gesellschaft) 顧問。

主な業績 *Die „I. Praesensklasse“ im Vedischen. Untersuchung der vollstufigen thematischen Wurzelpraesentia* (ヴェーダ語における所謂第一類現在動詞) Wien 1987, 1996 ; 「インドヨーロッパ語族：概観と人類史理解に向けての課題点検」『ミニシンポジウム ユーラシア言語史の現在 2004.7.3-4 報告書 上』総合地球科学研究所 2004 ; *Rig-Veda. Das heilige Wissen* (『リグヴェーダ』独訳・注, Michael Witzel 氏と共訳編, 堂山英次郎, Mislav Ježić 協力. Frankfurt am Main & Leipzig, 2007) ; 「インドのことばとヨーロッパのことば」『ことばの世界とその魅力』(東北大学出版会 2008) など多数。 <http://www.sal.tohoku.ac.jp/indology/>



千種 眞一 (ちぐさ しんいち) 先生

1950年生。東北大学大学院修了。東北大学文学研究科教授。

主な業績 「初期印欧語における不定詞と格機能について」『文化』43 (1979), 「初期印欧語の文結合辞と若干の関連形態について」『文化』44 (1980), *Indo-European Perfect and Linguistic Typology, Culture* 46 (1982), 「印欧語的に見たゲルマン語非人称構文」『東北ドイツ文学研究』28 (1984), 「印欧語曲用の類型的再建について」『文化』49 (1985), 『ゴート語の聖書』(大学書林 1989), 「印欧語中動態の機能と形態」『東北大学文学部研究年報』39 (1990), 「印欧語における文構造と動格性」『東北大学文学部研究年報』41 (1992), 『ゴート語辞典』(大学書林 1997), 『古典アルメニア語文法』(大学書林 2001) ほか。



本城 二郎 (ほんじょう じろう) 先生

1950年生。マサリク大学 (チェコ共和国) 大学院修了。岡崎学園国際短期大学教授を経て関西チェコ/スロバキア協会理事, 大阪大学外国語学部講師。

主な業績 「印欧語欧州タイプと言語類型論：系統化と類型化のダイナミズム」『言語文化学会論集』6 (1996) ; 「古代教会スラブ語と FSP」『ニダバ』26 (1997) ; 「スラブのゲルマン化：チェコ語におけるゲ



ルマニズム現象と分析性」『言語文化学会論集』14 (2000) ; 「スラブ・ゲルマン言語接触：中欧言語連合現象およびチェコ語・ソルブ語・ポラブ語の分析性」『ニダバ』29 (2000) ; 「スラブ語比較語順論：前倚辞の配列と機能を中心として」『ニダバ』31 (2002) ほか。

町田 健 (まちだ けん) 先生

1957年生。東京大学大学院修了。名古屋大学文学研究科教授。

主な業績 「古プロバンス語のテキストにおける動詞時制の分布」『言語研究』91 (1985) ; 「ラテン語の主節における接続法の意味について」『ロマンス語研究』25 (1992) ; 「フランス語の冠詞の意味」『ヨーロッパ文化研究』15 (1996) ; 『言語学のしくみ』研究社 2001 ; 『言語が生まれるとき・死ぬとき』大修館書店 2001 ; 『ソシユールと言語学』講談社 2004 ; 『言語学』第2版 (風間喜代三, 松村一登, 上野善道氏と共著) 東京大学出版会 2004 ; 『チョムスキー入門：生成文法の謎を解く』光文社 2006 ; 「ソシユールの継承者：イェルムスレウと言理学」『言語』36/5 (2007) ; セミル・バディル『イェルムスレウ：ソシユールの最大の後継者』大修館書店 2007 ; 『言語世界地図』新潮新書 2008 など多数。



吉岡 治郎 (よしおか じろう) 先生

1931年生。関西学院大学大学院修了。神戸海星女子学院大学名誉教授。

主な業績 ボー・ケープル『英語史』(共訳) 研究社 1981 ; 『中世英国ロマンス集』(共訳, I-IV) 篠崎書店 1981, 1986, 1993, 2001 ほか。英語史を研究なさる傍らで、ゴート語とケルト諸語の研究に長年お力を注いでいらっしやいます。大阪言語研究会誕生の1970年より2007年まで長年にわたって世話人をお務めくださいました。



世話人

神山 孝夫 (かみやま たかお)

1958年生。東京外国語大学大学院修了。大阪大学文学研究科教授。

主な業績 『日欧比較音声学入門』鳳書房 1995 ; マルティネ『印欧人のことば誌：比較言語学概説』ひつじ書房 2003 ; 『国際音声記号ガイドブック』(竹林 滋氏と共訳編) 大修館書店 2003 ; 『印欧祖語の母音組織：研究史要説と試論』大学教育出版 2006 ; 『脱・日本語なまり：英語(+α)実践音声学』大阪大学出版会 2008 ほか。



The Indo-European Colloquium of Japan の系譜 (抄)

1988年、The Indo-European Colloquium of Japan は大阪言語研究会 (第91回例会) として生まれました。しかし、そもそもその発端は、1978年秋、かの泉井久之助博士 (当時京都大学名誉教授、京都産業大学教授・国際言語科学研究所所長) が、大阪言語研究会を主催する昵懇の蛭沼寿雄博士 (当時関西学院大学教授) に「印欧語の会をやらないか？」と声をかけられ、「日本印欧学研究者専門会議」 (The Conference of Indo-Europeanists of Japan) を発起したことにあります (蛭沼寿雄「泉井久之助先生を偲ぶ」『同道精進』(1994))。

泉井博士の情熱と献身的な努力によって1979年に結実したこの会議は計4回開催され、わが国の印欧語研究者が一堂に会して互いの研究成果を共有し、また交流を促す貴重な機会となりました。しかし、主催する泉井博士がご健康を害し、1983年5月28日に幽冥境を異にされたため、泉井博士の遺志を継いだ蛭沼博士が急遽大阪言語研究会の例会2回をもって同年の第5回会議に充て、翌1984年からは新設の印欧学研究会がこれを引き継ぎました。1986年の第3回を最後に蛭沼博士は印欧学研究会を離れ、翌年から大阪言語研究会の活動の一環として印欧語学特別例会 (1987) が、次いで翌年から **The Indo-European Colloquium of Japan** が開催されるに至りました。泉井・蛭沼両博士の情熱と努力の結晶たる本 Colloquium が生生発展するよう、同学の皆様のご協力をいただければ幸いです。

泉井 久之助 (いずい ひさのすけ 1905-1983) 博士

略歴 京都帝国大学、大学院を経て京都大学教授、京都産業大学教授、日本言語学会会長等を歴任。文学博士。紫綬褒章。勳二等瑞宝章。

主な業績 『言語学概説』(1933 (筆者名 新村 出)), メイエ『史的言語学に於ける比較の方法』(1934), トムセン『言語学史』(1937), 『ヴィルヘルム・フォン・フンボルト』(1938), 『言語の構造』(1939), 『言語学論攷』(1944), 『言語構造論』(1947), 『ラテン広文典』(1952), 『言語の研究』(1956), 『言語の構造』(1967), 『ヨーロッパの言語』

(1968), 『印欧語における数の現象』(1978) など多数。詳しくは『泉井久之助博士著書論文目録』(泉井久之助先生生誕百年記念会 2005) 等を参照。



蛭沼 寿雄 (ひるぬま としお 1914-2001) 博士

略歴 東京帝国大学卒業。ハーバード大学で Joshua Whatmough 教授に師事。関西学院大学教授。文学博士。

主な業績 『新約聖書の成立』(1950), 『新約外典概説』(1953), J. H. モールトン『新約研究入門: パピルスと新約研究』(1953), ホワットモー『言語: 現代における総合的考察』(久野 暲氏と共訳 1960), 『新約・古典ギリシヤ語の読み方』(1973), 『ホワットモー: その業績と言語理論』(1975), 『原典新約時代史: ギリシヤ, ローマ, エジプト, ユダヤの史料による』(1978), 『ギリシヤ語新約語法』(1989) など, 古典語, ケルト語, 新約学を中心に多数。三省堂言語学大辞典ではイタリック語派, イタロ・ケルト語群, ケルト語派, ヴェネト語等を担当。詳しくは上記『同道精進』等を参照。



- ① 第1回 日本印欧学研究者専門会議 1979年6月25, 26日 於京都産業大学
 あいさつ 村山七郎 (京都産業大学国際言語科学研究所所長)
 経過報告 泉井久之助 (京都大学名誉教授, 京都産業大学)
 印欧語民族と馬の飼育 岸本通夫 (大阪大学名誉教授)
 古期ケルト語動詞の構造: 接中代名詞の使用について 土居敏雄 (豊橋技術科学大学)
 シケル語について 蛭沼寿雄 (関西学院大学)
 日本のイラン学 伊藤義教 (京都大学名誉教授, 京都産業大学)
 Homeros における表現の formula と文的創造との関係 岡 道男 (京都大学)
 母と父 風間喜代三 (東京大学)
 一スラヴィストの見たギリシア語のAspect 木村彰一 (東京大学名誉教授)
 能格: この不思議なるもの 下宮忠雄 (学習院大学)
 韓国語系統研究の現況と問題点 金 芳漢 (ソウル大学)
 リトアニアにおけるバルト・スラヴ両語の研究について 村田郁夫 (東京経済大学)
 印欧祖語の子音組織 松本克己 (金沢大学)
 Lingua Venetica の動詞形 泉井久之助 (京都大学名誉教授, 京都産業大学)
 閉会のあいさつ 泉井久之助 (京都大学名誉教授, 京都産業大学)
- ② 第2回 日本印欧学研究者専門会議 1980年6月23, 24日 於京都堀川会館
 会議担当者序言 泉井久之助 (京都大学名誉教授, 京都産業大学)
 ホメロスの比喩の言語言語 岡 道男 (京都大学)
 ゲルマン民族におけるパン 下宮忠雄 (学習院大学)
 バルト語の中性形の衰退過程について 村田郁夫 (東京経済大学)
 古代イタリア中東部の言語 蛭沼寿雄 (関西学院大学)
 聖書のゴート語訳へのラテン語の影響 吉岡治郎 (神戸海星女子学院大学)
 スラヴ語における非人称受動表現 山口 巖 (京都大学)
 印欧語民族の王権 大久間慶四郎 (豊橋技術科学大学)
 ケルト語の構造 土居敏雄 (豊橋技術科学大学)
 Skr. (á-)bhū-t, Gr. (ἐ-)φύ[τ] について 泉井久之助 (京都大学名誉教授, 京都産業大学)
- ③ 第3回 日本印欧学研究者専門会議 1981年6月22, 23日 於京都堀川会館
 英語方言における人称代名詞の印欧語的性格 岩本 忠 (京都産業大学)
 ウェイルズ語における緩音の現象と語順: 動詞前虚辞の機能について 水谷 宏 (金城学院大学)
 ギリシャ文学における女性の言語 松平千秋 (京都大学名誉教授, 京都産業大学)
 スラヴ語における行為名詞 -nie について 山口 巖 (京都大学)
 バルト語の名詞複数主格形 -ai をめぐって 村田郁夫 (東京経済大学)
 印欧語における完了形とゲルマン語 泉井久之助 (京都大学名誉教授, 京都産業大学)
 インド語史の一断面 風間喜代三 (東京大学)
 印欧語族の Kinship 大久間慶四郎 (豊橋技術科学大学)
 ラエト語 (Lingua Raetica) の性格 蛭沼寿雄 (関西学院大学)
- ④ 第4回 日本印欧学研究者専門会議 1982年6月21, 22日 於京都堀川会館
 ケルト語 (Old Irish) における palatalization について 土居敏雄 (豊橋技術科学大学)
 古代オリエントにおける Hittite 語 吉川 守 (広島大学)
 ヒッタイト語と印欧語的動詞体系 泉井久之助 (京都大学名誉教授, 京都産業大学)

- バルト語の名詞属格形の問題 村田郁夫 (東京経済大学)
古代スラヴ語におけるいわゆる行為名詞 *-nie* と *-tie* について 山口 巖 (京都大学)
Pre-Indo-Europeans in Europe 大久間慶四郎 (豊橋技術科学大学)
ラテン語の家を意味する語について 堀井令以知 (関西外国語大学)
古代北イタリアのリグル語とレーポント語 蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授)

泉井博士のご病氣と急逝により第5回日本印欧学研究者専門会議は中止されました。

- ⑤ 大阪言語研究会 第69, 70回例会 1983年8月29日, 12月26日 於なにわ会館
印欧語における不定形
ヴェーダ語, サンスクリットの不定形 松村 恒 (四天王寺国際仏教大学)
ギリシア語等の不定形 蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授)
印欧語における ego 蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授)
中期インド・アリアン語の韻律再考: Ganacchandas の場合 松村 恒 (四天王寺国際仏教大学)
ロシア語名詞の数のカテゴリーをめぐって 山口 巖 (京都大学)
- ⑥ 第1回印欧学研究会 1984年6月15, 16日 於京都産業大学
挨拶 矢島文夫 (京都産業大学国際言語科学研究所所長)
松平千秋 (議長, 京都大学名誉教授, 京都産業大学)
泉井久之助先生と印欧学 堀井令以知 (関西外国語大学)
印欧アナトリア語派におけるリュキア語の位置 松本克己 (筑波大学)
象形文字ルウィ語の関係接続詞について 大城光正 (岡山理科大学)
死をめぐる表現 風間喜代三 (東京大学)
印欧語とセム語の比較: 学史的展望 矢島文夫 (京都産業大学)
ロマンス語起動活用の起源について 小林 標 (京都産業大学)
Venet. ekupeθaris 蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授)
- ⑦ 第2回印欧学研究会 1985年11月15, 16日 於京都産業大学
西洋古典学と私 松平千秋 (京都産業大学)
現代ギリシア語事始め 関本 至 (広島文教女子大学)
以上司会 木村彰一 (東京大学名誉教授)
ミノア文字研究の現状: 特に線文字Aを中心に 松本克己 (筑波大学)
オスク語 *eituns-* 構文 蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授)
以上司会 風間喜代三 (東京大学)
- シンポジウム「ギリシア・ローマの詩と言語」
基調報告者 小川正広 (京都産業大学), 片山英男 (東京大学), 逸見喜一郎 (成城大学), 小林 標 (京都産業大学)
コメンテーター 岡 道男 (京都大学), 中山恒夫 (大阪大学)
司会 橋本隆夫 (神戸大学)
発言者 松平千秋 (京都産業大学), 川島重成 (国際基督教大学), 松本克己 (筑波大学), 中務哲郎 (京都産業大学), 木村彰一 (東京大学名誉教授)
- ⑧ 第3回印欧学研究会 1986年10月4, 5日 於京都産業大学
インド・イラン語派と印欧語研究 (特別講演) 風間喜代三 (東京大学)

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| 中期イラン語におけるサカ語の位置について | 熊本 裕 (四天王寺国際仏教大学) |
| 中世イラン語と中古漢語 | 吉田 豊 (四天王寺国際仏教大学) |
| ドラヴィダ語とインド=アリア語の相互影響 | 内田紀彦 (園田女子大学) |
| インドの天文学書に見られるギリシア語からの借用語について | 矢野道男 (京都産業大学) |
| シグマによる印欧語の未来形成の問題について | 吉田和彦 (京都大学) |
| 象形文字ルウィー語 <i>apa/api</i> について | 大城光正 (京都産業大学) |
| カタロニア語の起動動詞 | 小林 標 (京都産業大学) |
| イタリック語派の問題 (特別講演) | 蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授) |
| 「 <i>r</i> 」のゆくえ (アイルランド語の受け身) | 土居敏雄 (豊橋技術科学大学) |
| 英語におけるウムラウト | 岩本 忠 (京都産業大学) |

以降、蛭沼博士は印欧学研究会の運営から離れ、泉井博士が創設した日本印欧学研究者専門会議の伝統は、蛭沼博士の主催する大阪言語研究会に受け継がれました。

- ⑨ 大阪言語研究会 第 87 回例会 (印欧語学特別例会) 1987 年 12 月 26 日 於なにわ会館
 ルウィー語と印欧語研究 大城光正 (京都産業大学)
 印欧語の序数: ゴール語に関連して 蛭沼寿雄 (関西学院大名譽教授)

- ⑩ The 10th Indo-European Colloquium of Japan (大阪言語研究会 第 91 回例会)
 1988 年 10 月 26 日 於なにわ会館
 印欧語族の文化について 風間喜代三 (東京大学)
 ヒットイト語の動詞体系とその起源をめぐって 吉田和彦 (京都大学)
 印欧語における能格性の問題 松本克己 (筑波大学)
 英語動詞における印欧語的性格 岩本 忠 (京都産業大学)
 バナサクの碑文について 土居敏雄 (豊橋技術科学大学)
 アナトリア諸語における代名詞の形成について 大城光正 (京都産業大学)
 ヴェネト語 *kv* 蛭沼寿雄 (関西学院大名譽教授)

- ⑪ The 11th Indo-European Colloquium of Japan (大阪言語研究会 第 96 回例会)
 1989 年 10 月 7 日 於なにわ会館
 ヴェネト語 *kv* 蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授)
 ノヴゴロド第一年代記における完了時称 山口 巖 (京都大学)
 バルト語のアクセントと形態について 村田郁夫 (東京経済大学)
 「子供」または「息子」を意味する象形文字ルウィー語について 大城光正 (京都産業大学)
 言語と文化: バナサク碑文をめぐって 土居敏雄 (豊橋技術科学大学)

- ⑫ The 12th Indo-European Colloquium of Japan (大阪言語研究会 第 100 回例会)
 1990 年 9 月 29, 30 日 於なにわ会館

The Position of Germanic among the Indo-European Languages

Prof. Edgar C. Polomé (Univ. of Texas at Austin)

Europe as a Linguistic Area

Prof. Katsumi Matsumoto (Tsukuba Univ.)

Hospitality, Honour-Price and the Fatal Feast in Ancient Irish Law-tract

— a Sequel to the Inscription of Banassac

Prof. Toshio Doi (Nagoya Women's College)

Lepontic *pala*

Prof. Emer. Toshio Hirunuma (Kwansei Gakuin Univ.)

- ⑬ **The 13th Indo-European Colloquium of Japan** (大阪言語研究会 第 104 回例会)
1991 年 9 月 22 日 於なにわ会館
英語方言にみる古期英語語形 岩本 忠 (京都産業大学)
後期パーリ語におけるシンハラ語的要素 松村 恒 (親和女子大学)
古プロシア語『標準化』の試み：テキストの特殊事情から
井上幸和 (神戸市外国語大学)
コータン語の音韻 熊本 裕 (東京大学)
sudpiceno 蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授)
- ⑭ **The 14th Indo-European Colloquium of Japan** (大阪言語研究会 第 108 回例会)
1992 年 10 月 4 日 於なにわ会館
Kaluzs's Law について 鈴木誠一 (広島大学)
海の民族と印欧語族 大久間慶四郎 (豊橋技術科学大学)
三省堂『言語学大辞典』の編纂にあたって 千野栄一 (東京外国語大学名誉教授)
古代スラブ語研究の過去と現在 千野栄一 (東京外国語大学名誉教授)
スペイン・西ゴート法典 Forum Judic, 681 年とスペイン語法典 Fuero Juzgo, 1254 年
近松洋男 (天理大学)
- ⑮ **The 15th Indo-European Colloquium of Japan** (大阪言語研究会 第 112 回例会)
1993 年 9 月 19 日 於なにわ会館
英語の時の表現体系 山下美津子 (京都教育大学)
チェコ語動詞の態体系：機能論的アプローチ 本城二郎 (岡崎女子短期大学)
所有者の表現について 藤村逸子 (名古屋大学)
フランス語の日常言語に隠された失礼さ 西村淳子 (名城大学)
新約ギリシア語における動詞前接辞について 山本伸也 (聖和大学)
古ピカルディー方言の統語論的特徴 林田節子 (関西学院大学)
ラトヴィア語における英語語彙：Baldunčiks の辞書を資料として
田中研治 (神戸女子薬科大学)
- ⑯ **The 16th Indo-European Colloquium of Japan** (大阪言語研究会 第 116 回例会)
1994 年 10 月 2 日 於なにわ会館
イングランド方言における摩擦音の交替 石原田正廣 (四天王寺国際仏教大学)
バルト・スラヴ語アクセント法の史的法則 柳沢民雄 (名古屋大学)
Matronae 信仰をめぐる言語的諸問題 相京邦宏 (豊橋技術科学大学)
アショーカ王刻文の言語と本文批判 松村 恒 (親和女子大学)

蛭沼博士のご病気とご逝去 (2001 年) 等により中断

- ⑰ **The 17th Indo-European Colloquium of Japan** (大阪言語研究会 第 163 回例会)
2008 年 12 月 27 日 於待兼山会館 (大阪大学)
開会の辞 堀井令以知 (関西外国語大学教授)
一般言語学と内容的類型学 山口 巖 (京都大学名誉教授)
hic-iste-ille (付：泉井久之助先生の人と業績) 下宮忠雄 (学習院大学名誉教授)
閉会の辞 吉岡治郎 (神戸海星女子学院大学名誉教授)

⑱ The 18th Indo-European Colloquium of Japan (大阪言語研究会 第166回例会)

2009年12月19日 於21世紀懷徳堂(大阪大学)

開会の辞	鈴木誠一(関西外国語大学教授)
印欧語における人称標示について	千種眞一(東北大学教授)
ラリングルと印欧語のシュワー	神山孝夫(大阪大学教授)
閉会の辞	吉岡治郎(神戸海星女子学院大学名誉教授)

⑲ The 19th Indo-European Colloquium of Japan (大阪言語研究会第168回公開講演会)

2010年12月11日 於文法経講義棟41教室(大阪大学)

開会の辞	神山孝夫(大阪大学教授)
土居敏雄先生のご逝去を悼む	本城二郎(大阪大学講師)
蛭沼寿雄先生の遺作『新約本文のパピルス』(第3巻)の刊行について	吉岡治郎(神戸海星女子学院大学名誉教授)
ゲルマン祖語における子音変化の記述をめぐって	上野誠治(北海学園大学教授)
ラテン語からフランス語への時制・アスペクト体系の変化	町田健(名古屋大学教授)
印欧語比較言語学の現状と課題	後藤敏文(東北大学教授)
閉会の辞	千種眞一(東北大学教授)

付記

本日はご来駕を賜り誠にありがとうございます。

The Indo-European Colloquium of Japan は、主催者であった蛭沼寿雄博士のご病気とご逝去によって1994年を最後に、13年の長きにわたり開催が中断されておりましたが、多くの先生方のご理解とご協力を得て、2008年末に再開することができました。

今のところ、このような晴れがましい名称と伝統にはまったくそぐわない小規模な会ではありますが、今後皆様のご支援を得まして、徐々にかつての隆盛を取り戻すことができれば、また、出身・勤務校や所属学会の枠、あるいは研究対象の言語や方法論上の相違を超えて、わが国の印欧語比較言語学と印欧語古層等の研究・教育を振興する機会を継続的に提供できればと考えます。同学諸兄のご理解とご協力を切にお願いする次第であります。

2010年12月11日 世話人記

〒560-8532 豊中市待兼山町1-5 大阪大学文学研究科 神山孝夫
kamiyama@let.osaka-u.ac.jp

http://www.let.osaka-u.ac.jp/~kamiyama/The_Osaka_Institute_for_Linguistic_Studies.html

